

ETIC.

若きアントレプレナーたちの挑戦



ETIC. Activity Report
2001/02

なぜETIC.はこだわっているのか

Entrepreneurial Leaderの輩出を通して 社会に起業家精神とイノベーションを生み出す

環境、教育、福祉、地域活性、新たな産業の創出、雇用など様々な課題を抱える現代社会において、自らの意志と行動により、新たな価値を創出し、社会にイノベーションを生み出せる起業家型リーダーが求められています。

95%以上のリーダーが必要と語る 「起業家精神」

アクセンチュアによる全世界22カ国の企業、官公庁、非営利団体の経営層約900名に対する「起業家精神」に関する調査によると、世界のリーダーたちは、95%という圧倒的な割合で、「アントレプレナーシップ(起業家精神)」を成功のための「重要」な要素と考え、最重要課題としています。

多様な活躍のフィールド

一般に「アントレプレナーシップ」という「ベンチャー企業」「起業家」にのみ必要なものと考えがちですが、アントレプレナーシップはあらゆる国、文化およびいかなる規模の組織においても不可欠です。

特に最近では、環境や教育、福祉などといった社会的課題に対して、これまでの社会運動的アプローチではなくビジネス的手法で取り組む「社会起業家」や、大手企業のリソースを活かし、新たな産業を起こす「社内起業家」なども注目を集めています。

世界的に評価の低い日本の起業家精神

このような社会的ニーズにも関わらず、スイスの国際経営開発研究所(IMD)の2001年世界競争力ランキング(主要49カ国・地域)を見ると、日本の評価は、「起業家精神」の項目においては最下位となっており、起業家精神を育み、そして支援する社会的な制度や風土は、世界的にも遅れているのが現状です。

実際にその取り組みを見ても、一部の大学院において、起業家育成の取り組みは行われていますが、その質・量ともに、まだまだ不十分な状況であります。

社会を巻き込んだ仕組み創りを

学生時代に起業家を目指す若者のネットワークからスタートしたETIC.は、NPOというニュートラルな立場を活かし、これまでに多くのベンチャー企業経営者、大学関係者、行政関係者、そして起業家的な生き方を目指す若者とのネットワークを構築してきました。社会の様々な志をつなぎ合わせていくことにより、わが国における起業家型リーダー輩出の仕組みを、社会の文化・システムとして構築していくことを目指していきます。

ETIC.のこれまでとこれから

ETIC. Version 1.0

1994年～1996年
起業家を目指す若者の
全国ネットワーク

ETIC. Version 2.0

1997年～2000年
起業家型人材を輩出するための
仕組み創り

ETIC. Version 3.0

2001年～2005年
日本における起業家型リーダー輩出の
イノベーション・エンジン

1994年～1996年 「自分たちの将来を、日本の将来を創るのは自分たちだ！」 起業家を目指す若者の全国ネットワーク

学生時代には自分のこだわりを持ち、演劇やボランティア活動、イベント運営など、様々なことに取り組んでいた仲間たちが、大学4年になるとみんな同じように就職活動を始めていく。寄らば大樹の陰のように、みんな大手企業を目指すし始める。海外の同世代の若者たちは、自分たちで自分の人生を切り開き、そして社会を創りあげようとしているのに。

そんな問題意識を持った若者が集まり、日本経済新聞にもまだベンチャー欄がない時代に、起業家を目指す学生ネットワーク「ETIC.学生アントレプレナー連絡会議」が誕生しました。

すでに会社を経営しているもの、これから目指す学生が、全国から集まり、年間50回をこえる先輩起業家によるセミナーや、事業プレゼンテーション、勉強会などを行いました。

●起業家による講演会（年50回以上開催）

- ソフトバンク株式会社 孫正義氏
- 株式会社HIS 澤田秀雄氏
- ワタミフードサービス株式会社 渡辺美樹氏
他



1997年～2000年 「日本には、起業家を育てる、若者にチャンスを与える風土も仕組みもない！」 起業家型人材を輩出するための仕組み創り

学生組織としてスタートしたETIC.は、若者に起業家精神を啓蒙していく動きに対する社会からの信頼と期待を強く感じ、1997年にNPOとしての事業化を目指して、新たなスタートを切りました。

事業化の柱となったのが、起業家を目指す若者が一定期間ベンチャー企業において創業経営者とともに働く「インターンシップ」事業。学生にとって重要なことは、単に起業家の話を聞くだけでなく、自らチャレンジし、そして自らの潜在的な能力を育てることにあります。

第1期は11社30名の規模で開催したインターンシップ事業は、その後多くのベンチャー企業経営者の共感を得て、4年で250名以上の若者が参加する取り組みへと発展してきました。

その間、米国におけるインターンシップの取り組みの調査や成功したインターンシップ事例の研究などを通して、独自のインターンシップに関する方法論を確立して参りました。

その結果は、受入企業の拡大や、正規カリキュラムとしてETIC.のインターンシップを取り入れる大学のケース、そしてこの事業を通してベンチャー企業やNPOの創業、また大手企業において新規事業部を立ち上げるなどの成果を残しているOBOGなどに表れています。



2001年～2005年 「自己加速性を持った起業家輩出の社会システムを創る！」

日本における起業家型リーダー輩出のイノベーション・エンジン

起業家型人材の必要性は、年々確実に高まってきています。TLOや法律面などの起業家を支える社会制度や環境も整ってきています。

しかしその担い手となる若者を育てる仕組み、予備軍を発掘し彼らにチャンスを提供するような仕組みは、まだまだ未整備な状態にあります。

ETICはこれまで取り組んできたノウハウをもとに、この第3期を「日本における起業家型リーダー輩出のイノベーション・エンジン」を目指す位置付け、我が国における起業家型人材輩出の牽引役を担っていきたくと考えています。

すでに早稲田大学におけるカリキュラム「ベンチャー・インターンシップ」の運営委託や、NECとのパートナーシップによる「NEC学生NPO起業塾」の企画運営など、社会を巻き込んだ起業家型リーダー輩出の仕掛けの種を蒔き始めています。

自己加速性（ひとたび起こったことがますます起こりやすくなること）を持った起業家型リーダー輩出の社会システムを構築していくことを目指して、この5年間を取り組んで参ります。



基本戦略①

Exitを明確にした成果重視の人材育成

日本の大学の問題点として、出口管理の不十分さが取り上げられます。大学としての人材育成の質の管理の問題だと言えます。ETIC.ではこの出口管理を徹底的に行い、インターンシップ事業やインキュベーション事業の両面において、起業家型リーダーの輩出という目的にこだわった人材育成を推進していきます。

基本戦略②

ソーシャルベンチャーへのフォーカス

環境、教育、福祉などの社会的課題に対して、これまでのような社会運動的アプローチではなく、事業的手法を用いて取り組むソーシャルベンチャー。ETIC.ではソーシャルベンチャーを目指す若者に焦点をあてたインキュベーション事業展開を進めていきます。社会構造が大きく変わり、新たな産業の機会は、これら社会分野に大きく広がっていると言えます。さらには若者の価値観も変わり、彼らを動機付け、自らの意志で新たな価値を創出していくことを促していく切り口として、ソーシャルベンチャーというアプローチの可能性を感じています。環境や教育といった社会的分野にこだわるのではなく、自ら社会の発展に対して寄与していくという「志」に焦点をあて、様々な若者挑戦を盛り上げ、そして支援していきたいと思えます。

基本戦略③

ノウハウの標準化を図り、 地域の様々な機関とともに裾野を広げる

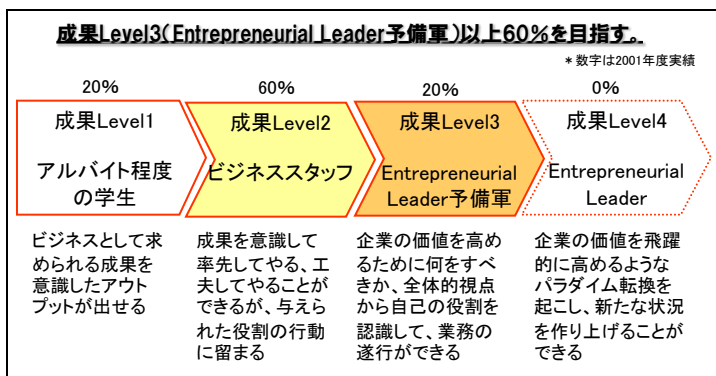
日本における起業家型リーダー輩出のイノベーション・エンジンという社会的役割を実現するためにも、ETIC.では高等教育機関を始めとする様々な機関との連携を重視していきます。ETIC.がこれまで取り組んできたノウハウや、これから開発する新たな手法論などの標準化を図り諸機関に還元していくことを通して、起業家型リーダーを輩出していくための裾野を広げていきます。「Exitを明確にした成果重視の人材育成」を垂直展開と捉え「ノウハウの標準化を図り、地域の様々な機関とともに裾野を広げる」動きを水平展開として、ETIC. Version3.0推進の基本戦略としていきます。

1 事業開発 & 問題解決型インターンシップ

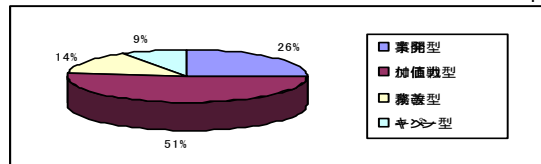
Exitを明確にした成果重視の人材育成をしていくために、ETIC.では目指す成果を下記図のように4段階に分け、現在取り組んでいます。学生が高い当事者意識を持ち、事業に対して全体的視点からコミットしていく「成果レベル3」に到達できる学生を、全体の60%まで高めていくことを目指しています。

そのためにも、そのような成果がより明確に期待されるインターンシップを企業側と構築していきます。そのような事業開発 & 問題解決型インターンシップの割合も、2001年と比較して2002年度は高まっております。

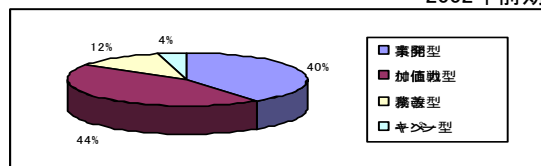
今後ますますこの方向性を強化し、人材育成の成果レベルを徹底的に高めていきます。



2001年



2002年前期



付加価値戦力型(中長期・既存事業)

派遣・アルバイトではなく、より高付加価値を目指して行うインターンシップ。既存業務に加わり取り組む。

業務改善型(中期・既存事業)

組織にとつてのモニター機能を期待し、定期的に取り組むインターンシップ。既存業務に加わり、業務改善提案などを行っている。

事業開発型(長期・新規事業)

スタートアップ期や新規事業・サービスの立ち上げ期において行うインターンシップ。経営者の視点と高いコミットが求められる。

キャンペーン型(短期・新規事業)

春夏休みの1～2ヶ月間、主にマーケティング分野において集中プロジェクトを実施する企業

2 ソーシャルベンチャーインキュベーション立ち上げ

2002年4月20日に、日本初のソーシャルベンチャープランコンペティション「STYLE2002」を開催致しました。これを皮切りに、現在NECとの協働による「NEC学生NPO起業塾」の開催に取り組んでいるほか、「STYLE2003」開催に向けた準備や、定期的な経営相談会の開催などを行っていきます。

2002年度はパイロットプロジェクトと位置付け、学生や20代の若者がソーシャルベンチャーを立ち上げる際の課題や突破すべき壁が何か、またどのようにしてブレイクスルーすることができるのかなどを、パイロットプロジェクトをもとにしながらか調査研究していきます。

* 学生NPOの成長段階と抱える課題



▲ NEC学生NPO起業塾では、この領域の学生NPOを支援していきます。

3 多くの参画を募るための会員制度整備

ETIC. Version3.0の基盤の一つが、様々な機関との連携です。そのためにも現行の会員制度を改革し、企業・大学・個人の方々と積極的な連携を取っていただけるよう整備していきます。

2002年度後期からは会員獲得の営業活動を強化し、ETIC.の事業活動の基盤である多くの共感者を獲得していきます。



アントレプレナー・インターンシップ・プログラム

ベンチャー企業・NPO・大手企業新規事業部での実践型インターンシップ

起業家志向・プロフェッショナル志向の学生が年間300人以上参画する長期実践型インターンシップ。起業家精神に満ち、スピード感溢れるベンチャービジネスの現場で、学生が責任のあるポジションにたち、事業の成功に貢献することを目指して取り組む「就業機会」を提供します。学生の成長とベンチャービジネスの発展のWin-Winを目指した事業です。

283名の学生がアントレプレナーインターンシッププログラムに参加しました。

1、2年生という早い時期からの参加や、 内定後の4年生の参加が増加

学生が戦力として受入先の成果に貢献することを通して自己の能力を高め、テーマの深掘りを行う事を目的としたEIP。早いうちから社会に出ることで自らのキャリアを高めたいと考える大学1、2年生の参加や、大企業での自らのキャリアのスタート前にベンチャーでのインターンシップによって起業家的思考行動特性を身に付けたいと考える大学4年生の参加が増加するという傾向がありました。これは、採用直結型の就職活動中の大学3年生のみを対象としたインターンシップが一般的には浸透する中で、特徴的な傾向であったと言えるでしょう。



前後期合計で93社が、インターン生を受け入れました。



ITベンチャーに加え、NPOなど 時代の背景にあわせた受入先も増加。

受入企業に関しては、2001年度も前年度と同様に、スタートアップから5年以内のIT系のベンチャー企業を中心となりました。しかし、時代の流れにあわせる形で、エコマネーネットワークなど、NPOの受入先も増加傾向にあります。

住宅販売見込客との出会いの場を生み出す「企画室」プロジェクト



東京電力社内ベンチャー第一号として、住宅性能表示ソフトウェア販売と、住宅設計に取り組むアルファプライムジャパン。独自の技術力（環境対策機器）や設計デザイン力、そしてエコロジー機器対応住宅設計などを強みとし、高付加価値な住宅設計に取り組んでいる。受注型の産業である住宅設計分野において、今後同社が事業規模を発展させていくために、学生2名が社長のもとで「企画室」を新たにスタート。これまでに、TEPCO横浜などへの企画提案、家具のオンライン販売など、様々なプロジェクトを学生達の力で実行している。貴重な企画の戦力として、インターンを半年から1年へ延長が決定。

株式会社インタースコープ

新しいマーケティングリサーチ手法の開発に成功

- インターネットユーザーの匿名化に基づいて発見可能な隠れたリサーチ＆アナリシス
- 高度した説明権能力とデータ分析スキルに基づいたコンサルティングサービス



- 豊富な市場調査Know-Howと高度なITスキル
自らのネットビジネスの経験に基づいた
新規事業開発リポート



Eマーケティングにおける調査企画から戦略立案までを手掛ける株式会社インタースコープ。マーケティングコンサルティングと市場調査のノウハウを武器に、Eリサーチ業務とR&D業務を強化し革新的なEマーケティングのスタンダード獲得を目指す。マーケティングアシスタントとして参画した学生は、特にR&D部門においてリーダーシップを発揮。新しいマーケティングリサーチ手法の開発に成功する。

株式会社フィッツコーポレーション

同志社大学を休学して「男性向け香水販売サイト」の立ち上げに成功！



香水の輸入卸し、オンライン販売（EC部門は楽天第三位の実績を誇る）に取り組む株式会社フィッツコーポレーション。同志社大学3年次の学生が、大学を休学をし、東京原宿の同社でインターンに参加。Yahoo!ショッピングへの出店を、プロジェクトアシスタントとして経験をした後、自らの提案である、「男性向け香水販売サイト」の企画開発に取り組み、2001年12月にサイトオープン＆サービスインを実現。順調に売上を伸ばしている。

地域通貨「エコマネー」普及のための広報プロジェクト

地域コミュニティ活性化の一つの方法として注目を浴びている「エコマネー」の普及推進を進めるエコマネーネットワーク。

エコマネーの正しい知識と幅広い活用のため、代表の加藤敏春氏は講演活動などに精力的に取り組んでいる。

このエコマネーの普及を促進すべく、オンラインでの情報提供、ニュースレターの発行などの企画から運営まで、学生インターンが担当。事務局運営の要として活躍。



株式会社ラストリゾート

2002年4月に100のコースでスタートする 海外留学プログラム立ち上げ

海外留学や海外インターンシップのコーディネーターで急成長中のベンチャー、ラストリゾート。同社の新サービスとして現在開発中の「ライセンスプログラム（海外で資格や専門分野の学習を行う／例）フライトアテンダントコース、ホスピタリティマネジメントコース等）」を、学生がプロジェクトリーダーとして、02年4月に100のコースでのサービスインを目指し、プロジェクトのマネジメントから海外提携学校との営業、販売プロセスの構築などを実施中。



株式会社ガイアックス

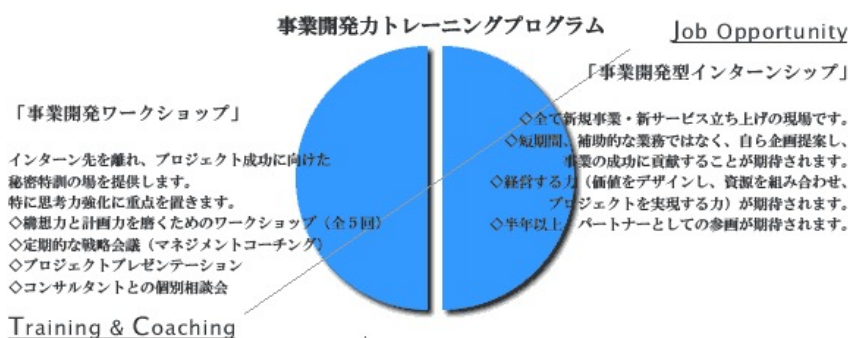
インターネットコミュニティの可能性を迫る コミュニティサイト立ち上げプロジェクト

インターネット上の「コミュニティ」の開発運営において成長するベンチャー、株式会社ガイアックス。横浜国立大学4年の学生は、社が追求する「人と人をつなげる」というビジョンを体現するコミュニティサイトの構築・運営を手掛け、サイト開設1週間で会員150名、ページビュー10000の成果を残す。



事業開発カトレーニングプログラム

若者たちが、EIPの中で、起業家や新規事業マネージャー、ソーシャルアントレプレナー、ビジネスプロデューサーのように、「新たなサービスや事業を生み出していくこと」をサポートするため、この「事業開発力」を伸ばす土台をつくる「事業開発カトレーニングプログラム」を実施いたしました。



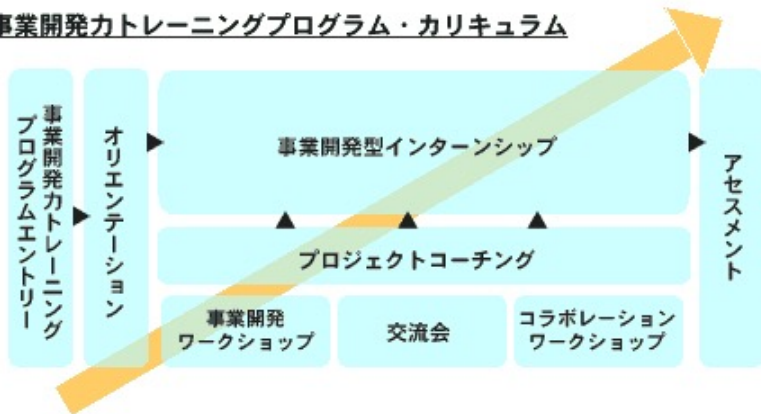
プログラムは、各期、EIPでの現場を現在進行形で推し進めている学生10人程度の少人数で構成し、メンター、コーディネーターのサポートの下、そこでの成果の向上を目指しました。

2001年8月から9月に実施された第2期プログラムでは、事業開発に必要な視点を獲得するためのワークショップと個別のプロジェクトについての相談会を通して、新規事業・サービスの付加価値向上を目指しました。

2001年11月に行われた第3期プログラムでは、合宿形式で実施し、ビジネス設計に必要な視点を学ぶワークショップと同時に、各人にメンターが付き、集中的に事業のブラッシュアップを行いました。

講師：川北秀人氏（人と組織と地球のための国際研究所(IHOE) 代表

事業開発カトレーニングプログラム・カリキュラム



<参加プログラム例>

- ・海外留学研修プログラムの立案
- ・古書教科書の最流通システムの立ち上げ
- ・コンシューマー向けウェブインターフェイスの設計
- ・香水のオンライン販売戦略策定

参加学生の声

今、自分が考えている商品を発表してサービスとしての魅力、費用などの妥当性などについて意見を聞くことを目的に参加しました。一人で考えるより、分野は違っても同じように新規事業や起業を考える人たちと、事業プランをブラッシュアップしたり、プレゼンをする機会は非常に有意義な時間でした。

アントレプレナースクール

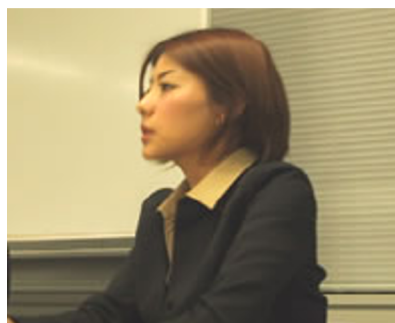
アントレプレナーを目指す若者が所属する企業・団体でより高い成果を上げられるように、第一線で活躍する起業家、コンサルタントをお招きしスキルトレーニング・コンピテンシー開発を行いました。

「自分のステージは自分で創る講座」

講師：小室淑恵氏 株式会社資生堂 経営企画室

インターン経験OGによる寄付講座。インターン時代から伝説ともいえるべき成功体験を積み上げ、社会人になってからも確実に自分のやりたいことを実現させている小室氏。

講座では小室氏がインターン時代の営業経験や、資生堂での新規事業立ち上げの経験、資生堂の経営改革・組織改革の経験などをもとに、「夢」を実現させるために必要な仕事に対する「姿勢」や「捉え方」を伝授しました。



「プロジェクトマネジメント講座」

講師：孫泰蔵氏（インディゴ株式会社代表取締役会長）

Yahoo! Japanの立ち上げを皮切りに、多くの大企業やベンチャー企業を巻き込みながら、次々に新たなプロジェクトを成功に導いてきた孫泰蔵氏。

講座では孫氏がチームで事業をマネジメントしていくために必要不可欠なプロジェクトマネジメント、コラボレーションマネジメントの技法をわかりやすく解説しました。

「トレーディングゲーム講座」

講師：船橋力氏（株式会社ウィル・シード 代表取締役社長）

教育を通じてよりよい世の中の創造を目指す教育研修会社ウィル・シード船橋氏からの提供講座。SONY・富士ゼロックス・マイクロソフト・NTTといった大手企業が内定者研修、新人研修として採用しているトレーディングゲームを実施。参加者はゲームの中から、事業で成果を出す為に必要とされるスキル・能力・思考・行動パターンについて理解しました。



その他講座

●財務会計基礎講座

阿部 久美子氏
国民生活金融公庫総合研究所 主任

●スーパーモチベーション講座

上原 隆氏
株式会社インテリジェンスメディアセクター
株式会社オポチュニティ 広報宣伝室 室長

●成果を出せる仕事の進め方講座

川上 真史氏
ワトソンワイアット株式会社 コンサルタント

●コーチング講座

清水 隆一氏
株式会社コーチ21 コーチ

●マーケティング基礎講座

磯部 光毅氏
株式会社博報堂 ストラテジックプランナー

●事業計画書講座

小松 伸多佳氏
野村リサーチ・アンド・アドバイザー株式会社
事業調査部 マネージャー副主任研究員

●アイデアを形にするための企画塾

大槻 貴志氏
R.G.B株式会社 代表

●アントレプレナーのためのキャリアマネジメント講座

堀 義人氏
株式会社グロービス グループ代表・CEO

●アントレプレナーセミナー～起業家精神編～

福島 正伸氏
株式会社アントレプレナーセンター代表取締役

●クリティカル・シンキング講座

鈴木 健一氏
株式会社グロービス マネジメント・スクール



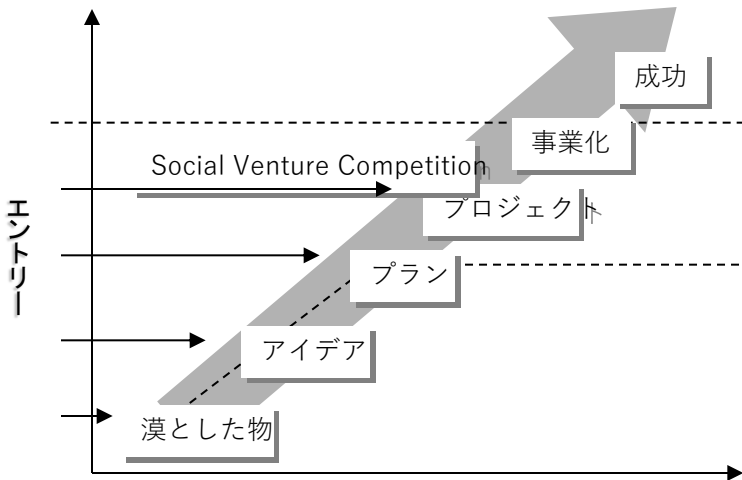
シードステージ・インキュベーションプログラム

20代を中心とした若手起業家のシードステージ(創業準備期)を社会を巻き組み支援するインキュベーションプログラム

起業家、社会起業家(ソーシャルアントレプレナー)を目指す20代の若者に対して、社会の先輩起業家や専門家、そして大手企業などのリソースを巻き込み、シードステージ(創業準備期)を支援していきます。特に「ビジネスパートナー」とのマッチングを重視し、経験の少ない若手起業家に、外部と連携した「ビジネスの機会」を提供します。本年度より、本格的な取り組みを開始しました。

STYLE 2002 - Social Venture Competition

社会的課題を事業として解決するソーシャルベンチャーの ビジネスプランコンテストを開催。



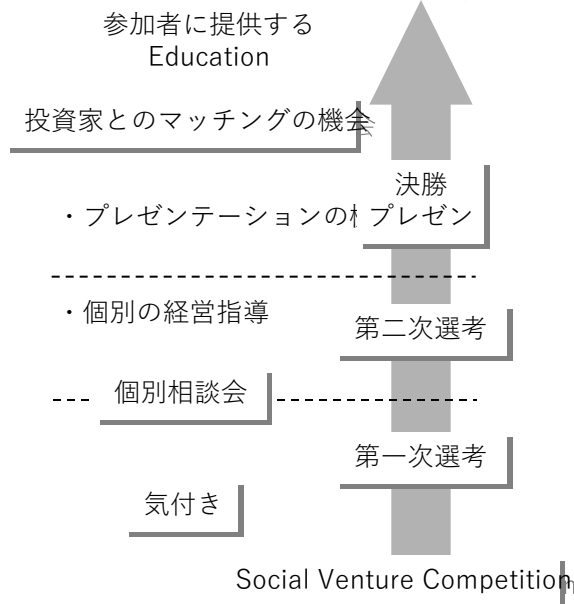
自らの社会に対する問題意識をカタチにする挑戦の機会。

今回のビジネスプランコンペは入り口の段階では漠とした物やアイデアレベルでも構わないという方針でした。しかし、最終選考までの段階的なサポート（ビジネスプランについてのレクチャー・経営相談など）を経て、最終的には「実現」に対するリアリティを持ったプランであることを目指しました。

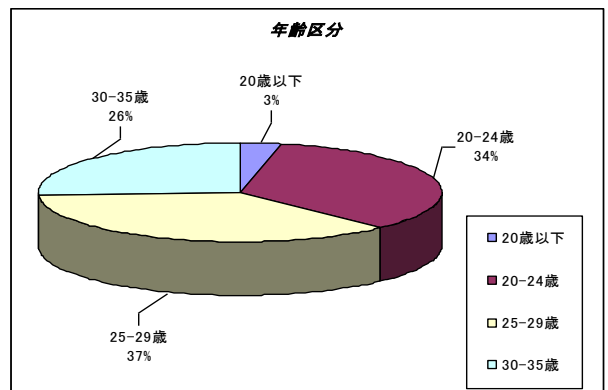
全国から個人の情熱に基づいた 71のプランが集まる。

第一次審査では、全国から71ものプランが集まりました。そのほとんどのプランが個人の情熱にもとづいた、素晴らしい問題発見をしていました。

「事業ミッションの社会性」「ミッションが、事業モデルにまでに深められているか」「新規性、独自性」を柱に審査を行い、17のプランが第二次審査進出となりました。落選したプランの多くは、残念ながら問題発見に留まり、「よいアイデア」だが、「よい事業アイデア」にまで落ちていないものでした。しかし、応募者の方々に対しては、アクションをここで止めないように、継続して取り組んでいただきたいと思います。



応募者データ



2002年4月20日に多摩大学ルネッサンスセンターにて最終選考会が行われ、5組がプレゼンテーションを行いました。結果、2組が優秀賞に選ばれました。

- ・優秀賞 + 感動賞
カフェスロー・コタカチ / 藤岡亜美
- ・優秀賞
地域をつなぐ震災共済

EIPのOB・OGを中心とした学生が、社会を巻き込んでプロジェクトを実施

ベンチャー企業やNPOでの実践的なインターンシップを通じて主体的に価値を生み出す経験したEIPのOB・OGが中心になって、今度は、自分達から社会に仕掛けるプロジェクトを生み出していくという自主的な活動が盛んになっています。

今後は、彼らが中心となり、ETIC.内外の様々なリソースを活用しながら新しい価値が創造されているコミュニティ創りをやっていくことが期待されています。



プロジェクト実施例

■プロジェクトマネジメントゲーム開発プロジェクト
ETIC.アントレプレナーズスクールの一講座「プロジェクトマネジメント講座」を受講したEIPのOB・OG4人が実施しているプロジェクト。プロジェクトマネジメント・スキルを体得できるゲームを開発。社会人や高等学校でもゲームが実施され、今後も新たなゲーム開発、小学校・中学校での実施等が検討されています。

■豊洲地区活性化プロジェクト
地域の活性化に問題意識を持つEIPのOB・OG3名が中心になって実施されたプロジェクト。実際に東京近郊の豊洲地域を舞台に地元の商店街や学校とコラボレーションしながら地域主導の活性化施策を行った。現在は地元の青年団に引継がれているが、プロジェクトメンバーは継続的にコンサルティング及びサポート活動を行っている。

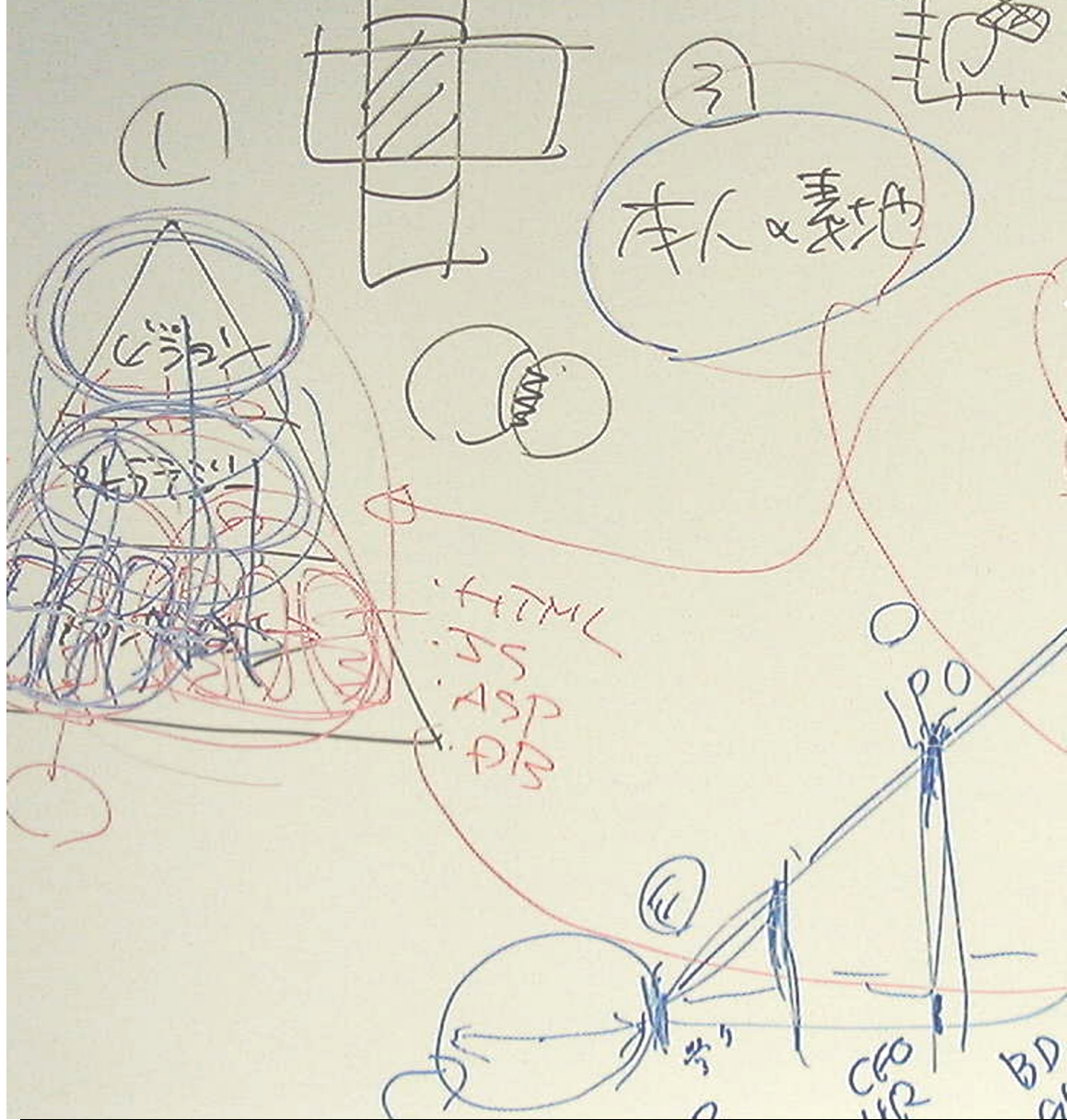
- その他プロジェクト多数
- ・ファミリーフレンドリーな企業の指標作りプロジェクト
 - ・若者の能力開発研究プロジェクト
 - ・実践的インターンシップ普及・啓蒙プロジェクト

アイゲイト (iGate)

スタートアップのアントレプレナー(起業家)を支援するインキュベーション



1999年秋よりNTVP（日本テクノロジーベンチャーパートナーズ）と共同でスタートした「アイゲイト」は、現在まで24名程度の起業家を支援してきました。2001年度は、入居者間のシナジーをもっとよくしていく方針に基づき支援対象の分野を「IT」の分野と絞り込みました。また、社会起業環境の状況の変化に応じ、サービスなども充実させ、よりよいインキュベーションを目指していきたいと思っております。



人材育成プログラム構築支援事業

ETICの人材育成メソッドを活用し、さまざまな組織・ネットワークにおける人材育成をサポートする事業。

ETICは、EIP、SIPにおいて開発している「人材育成メソッド」を活用し、様々な組織・ネットワークにおける人材育成のサポートをしています。

大学における人材育成力向上のニーズ、国をあげてのベンチャー創出の掛け声を背景に「若い力を伸ばす人材育成のメソッド」が求められています。

また、日本にとどまらない世界的なリーダーシップ・アントレプレナーシップ・ディベロップメントの流れを後押しすべく活動を展開しております。

2001年は特に、これまでETICが培ってきた人材育成メソッドを形式知化し、様々な場面に適用させることに力をおきました。

2002年は、これまでのナレッジを活用し、新しい人材育成モデルの開発のための研究プロジェクトにも軸足をおいて活動してまいります。

現在は、経済産業省産業技術局と連携し、アントレプレナーを育成する産学協同教育の実践ガイドラインの策定についての研究プロジェクトを進めております。

実践型インターンシップ普及促進シンポジウム 創業ベンチャー国民フォーラム

創業ベンチャー国民フォーラム(経済産業省中小企業庁・中小企業創業事業団・財団法人社会経済生産性本部)と連携し、2001年12月4日、実践型インターンシップ普及促進シンポジウムを開催しました。



シンポジウムでは、大学の中で実践型インターンシップの促進に積極的に関わっていらっしゃる方々をお招きし、モデルケースとしての事例紹介を頂きました。

<事例紹介>

- ・早稲田大学 井上文一氏
- ・慶應義塾大学 古畑仁一氏
- ・立教大学 廣江彰氏
- ・中央大学 大久保信行氏
- ・スタンフォード日本センター 藤岡永子氏

また、シンポジウムに合わせて、これまでのEIPコーディネートにおけるナレッジをまとめ、実践型インターンシップ成功のためのコーディネーター、スーパーバイザー、大学担当者の役割などについてのガイドブックを作成しました。

EIPの大学単位認定・大学人材育成プログラム構築連携

中央大学・青山学院大学国際政治経済学部・早稲田大学オープン教育センター・慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

2001年度より青山学院大学国際政治経済学部における単位認定インターンシッププログラムとして、ETIC、EIPが認定されました。また、他のいくつかの大学と連携し、大学の人材育成方針に基づいた有効な人材育成プログラムの共同開発を行っています。

プログラム開発における連携

- 中央大学就職部
- 中央大学総合政策学部
- 早稲田大学オープン教育センター
- 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

アジア・テクノロジー・イニシアティブ2001 スタンフォード大学SSAE

ETICは、日米の若手起業家の交流を深めアントレプレナーの育成を促すことを目的に、スタンフォード大学SSAE(The Stanford Society of Asian-American Engineers)と連携し、「アジア・テクノロジー・イニシアティブ2001(ATI2001)-東京プログラム」を行いました。

プログラムでは、スタンフォード大学の技術系学生が日本のスタートアップベンチャーに一定期間参画することをコーディネートすると同時に、日米のベンチャーキャピタルの方やスタートアップベンチャーで活躍されている方々をお招きし、2001年9月9日「アントレプレナーシップ・カンファレンス2001」を行いました。



インターンシップハンドブック開発 中央大学就職部

中央大学就職部と連携し、学生向けインターンシップハンドブックを作成しました。インターンシップハンドブックは、学生がインターンシップに参加する上で必要な心構えや、実際にインターンシップに参加した学生の体験談をまとめたもので、インターンシップにはじめて触れる学生や、これから実際にインターンシップに参加しようとしている学生に対して、正しい認識を促すものです。

<目次の一例>

- ・なぜインターンシップが必要なのか
- ・目的にあったインターンシップを選ぶ
- ・体験者が語るインターンシップ
 - 新規事業の立ち上げ
 - 店舗の企画運営
 - 営業
 - マーケティング戦略



行政との連携・セミナーシンポジウム講演

行政との連携に基づくプロジェクトや、様々なセミナーシンポジウムにおける講演を行いました。

参考；アントレプレナー・インターンシップ・プログラム導入・推薦大学および行政との提携実績

- ・『起業家教育(ベンチャーインターンシップ)実施および普及事業』 (平成13年度 創業・ベンチャー国民フォーラム (経済産業省関東経済産業局委託「地域起業活性化事業」)
- ・『アントレプレナーズスクール事業』 (平成13年度 新事業開拓支援助成金事業、中小企業総合事業団)
- ・『実践型インターンシップ普及推進シンポジウム』 (実施期間NPO法人ETIC、主催：創業・ベンチャー国民フォーラム、経済産業省関東経済産業局 (2001年12月))
- ・『京都イノベティブコミュニティ』 (主催：京都ビジネスモデル推進委員会・企画・運営：NPO法人ETIC.) (2001.7~2002.1 計10回)

氏●招聘講演・依頼講演他

- ・「インターンシップシンポジウム in 沖縄『インターンシップの持つ意義と可能性』」 / 沖縄総合事務局経済産業局主催 (2002.2)
- ・「起業家・ベンチャー企業に必要なもの・・・インターンシップに期待すること」 / 三重大学主催、平成13年度インターンシップ推進企画分野別連続セミナー (2002.1)
- ・「明治大学インターンシップ・ガイダンス」 / 明治大学インターンシップ推進プロジェクト学生チーム主催、経営学部ジョブインターンシップ委員会後援 (2001.12)
- ・「2001年度公開インターンシップ報告・討論会」ゲストアドバイザー / 早稲田大学オープン教育センター主催 (2001.12)
- ・「第1回大阪工業大学ビジネスプランコンテスト」 審査員 / 大阪工業大学 ビジネスクリエイト主催 (2001.11)
- ・「新産業創出委員会『NPO法人ETIC.ケース紹介』」講師 / 経済団体連合会 (2001.11)
- ・「仙台市民起業家スクール」ケーススタディ講師 / せんだい・みやぎNPOセンター主催 (2001.11)
- ・「21世紀にはばたく技術人づくり (=インターンシップ) 事業セミナー」 / 山形県中小企業団体中央会主催 (2001.11)
- ・「NPO起業塾コース」講師 / 東京商工会議所 (2001.11)
- ・「ヤングベンチャー発掘支援事業」ビジネスプランコンテスト審査員 / 高知県商工労働部 (2001.11)
- ・「自分の将来を考える」シンポジウム・ファシリテーター / WASEDA EXPO主催 (2001.11)
- ・「企業向けインターンシップガイダンス」 / 富山県経営者協会 (2001.8)
- ・「インターンシップ事業事前講習会」講師 / 秋田県雇用対策室 (2001.8)
- ・「青山学院大学インターンシップ・ガイダンス」パネルディスカッションコーディネーター / 青山学院大学国際政治経済学部主催 (2001.7)
- ・「インターンシップ参加者のための事前セミナー」講師 / 立命館大学キャリアセンター主催 (2001.7)
- ・「インターンシップ大研究 ~インターンシップ体験報告会~」講師 / 立命館大学キャリアセンター主催 (2001.7)
- ・「夏のキャリアアップ大作戦~はじめようインターンシップ!~」講師 / 松山大学future ship supporters主催 松山大学生協共催 (2001.6)
- ・「早稲田大学アントレプレナー講座」『ベンチャー企業創出特論~若手起業によるパネルディスカッション』パネリスト / 早稲田大学アジア太平洋研究科 (2001.6)
- ・「新産業創出委員会」講師 / 経済団体連合会 (2001.4)

Topics

アントレプレナーズ・インパクト2002 起業家のコラボレーションの促進



ETICにご賛同くださっている経営者の方々、活動にご参画して下さっている社会人の方をお招きして、2002年3月17日、「アントレプレナーズ・インパクト2002」と称した交流会を開催しました。今後も年に何度か起業家の方々や社会で活躍されている方々がコラボレーションを図っていくことのできる場をつくっていく予定です。

<当日ご参加くださった方々>

- 坂本孝氏
(ブックオフコーポレーション株式会社)
- 平石郁生氏
(株式会社インタースコープ代表取締役
会長兼CEO)
- アレン・マイナー氏
(サンブリッジ代表取締役)
- 渡辺光章氏
(アクシアム代表取締役)

Publicity

他

2001/2/5	信濃毎日新聞	自分らしく働くために 就職支援のNPO代表 宮城治男さん 「現場に入り可能性探って」
2001/3	日経Web Company	21世紀に活躍するIT人材になる！「ベンチャー企業は 次代を担う人材育成の場。志ある若者に就業機会の提供を」
2001/4/23	信濃毎日新聞	自分らしく働くために インターンシップ最前線 シリーズ 1- 5
2001/10/1	日経ビジネス	自立した市民が時代を担う
2001/10/2	学街連携	ベンチャー体験、実社会のスピード感を実感
2001/11/24	日本経済新聞	起業家はNPOが育てる
2001/12末 3]	テレビ東京	経済プロジェクト2001「オレたちの時代がきた。ITスペシャル
2002/1/1	朝日新聞	NPOで地元起業後押し
2002/1/23	日本経済新聞	社会貢献形VB育成
2002/2 ビジネス	HotWired Japan	社会起業家という生き方 社会的課題に取り組む
2002/1/27	朝日新聞	社会貢献を掲げる起業家発掘を目指す 宮城治男さん
2002/2/26	沖縄タイムス	企業・学生双方にメリット インターンシップシンポジウム

Partners

2001年度アントレプレナー・インターンシップ・プログラム会員

IIHOE(人と地球と組織のための
国際戦略研究所)
アートコーポレーション株式会社
アウンコンサルティング株式会社
株式会社アウトソーシング
株式会社アクシブドットコム
株式会社アクシム
アダプテック・ジャパン株式会社
株式会社アルファプライムジャパン
株式会社イクイップル
株式会社イーマネージメント
株式会社アイデアインターナショナル
株式会社インタースコープ
インデックスデジタル株式会社
エコマネーネットワーク
株式会社エスケイジャパン
エヌ・シー・イー・コンサルティング
株式会社
NTTコミュニケーションズ株式会社
株式会社MDコミュニケーションズ
株式会社エルパ
株式会社エンパワーメント
株式会社エムスタ
株式会社MT&カンパニー
オフィネットドットコム株式会社
株式会社オポチュニティ
株式会社オリエンタル

株式会社ガイアックス
株式会社ガイアックスカフェ
株式会社ケイ・ラボラトリー
株式会社ケーエヌアイ
株式会社コネクト
株式会社サイバーエージェント
NPO法人SCCJ(日本サステイ
ナブル・コミュニティ・センター)
株式会社ザッパラス
株式会社ザ・プランズ
三洋電機株式会社
株式会社スターチャイルド
NPO法人スペシャルオリンピックス
日本
スリープロ株式会社
株式会社ゼイヴェル
株式会社セントメディア
株式会社ツタヤオンライン
株式会社テックジャム
株式会社ディーエヌエー
有限会社デジタル・アドバイザー
株式会社トータルソリューション
株式会社トレジャーファクトリー
株式会社ドリームアンドモア
トレンダーズ株式会社
株式会社ナチュラム
有限会社ナースケア

ニスコム株式会社
日本インテグレート株式会社
株式会社ネットエイジ
株式会社バーチャルブレン
有限会社万来
株式会社フィッツコーポレーション
株式会社ブックオフコーポレーション
株式会社ブックマークエンタープライズ
株式会社フープス
有限会社ブーム・メディア・コミュニケー
ションズ
株式会社フランチャイズアドバンテージ
有限会社ベンギンファクトリー
株式会社ポジティブドリームパーソンズ
ポデイ・インターナショナル株式会社
株式会社ボーナスプレス
株式会社ホロニック
株式会社松利 マルチメディア事業部
きがるネット
有限会社ミレー
株式会社メールイン
財団法人安田火災
株式会社ゆめみ
楽天株式会社
株式会社ラストリゾート
有限会社リサイクルリンク

Special Thanks

株式会社サンブリッジ代表取締役/アレン・マイナー氏
国民生活金融公庫/阿部久美子氏
エヌ・シー・イー・コンサルティング株式会社代表取締役
/石井美鈴氏
株式会社博報堂ストラテジックプランナー/磯部光毅氏
慶應義塾大学政策メディア研究科/猪尾愛隆氏
株式会社オポチュニティ広報宣伝室マネージャー
/上原隆志氏
R.G.B代表/大月貴志氏
ウィルキャピタルマネジメント株式会社ヴァイスプレジデント
/影山知明氏
ワトソンワイアット株式会社コンサルタント/川上真史氏
IIHOE(人と地球と組織のための国際戦略研究所)代表
/川北秀人氏
株式会社リクルートWorks研究所/木島洋嗣氏
野村リサーチ・アンド・アドバイザー株式会社事業調査部
マネージャー/小松伸多佳氏
株式会社資生堂経営企画室/小室淑恵氏
株式会社レゾナンス代表取締役/近藤正純ロバート氏
株式会社ブックオフコーポレーション代表取締役/坂本孝氏
日本オラル会長兼CEO/佐野力氏
株式会社コーチ21シニアコンサルタント/清水隆一氏
株式会社ソフィアバンク代表取締役/田坂広志氏
NPO法人人道目的の地雷除去支援の会事務局長
/冨田洋氏

株式会社イースクエア代表取締役社長
/ピーター・D・ピーダーセン氏
株式会社三和総合研究所市民生活室室長
/広石拓司氏
株式会社アントレプレナーセンター代表取締役
/福島正伸氏
マッキンゼー・アンド・カンパニーコンサルタント
/藤沢烈氏
株式会社ウィルシード代表取締役社長/船橋力氏
株式会社グロービス代表取締役/堀義人氏
マネックス証券株式会社代表取締役/松本大氏
日本テクノロジーベンチャーパートナーズ代表
/村口和孝氏
多摩大学学長/中谷巖氏
イーディーコンライブ株式会社代表取締役
/川合アユム氏
ザッパラス株式会社代表取締役会長
/玉置真理氏
株式会社フィッツコーポレーション
株式会社ザッパラス
株式会社ゆめみ
多摩大学ルネッサンスセンター
三洋電機株式会社VB推進室
株式会社ガイアックス

Financial Statement

本来事業 会計貸借対照表

2001年4月1日～2002年 3月31日

資産の部		負債の部	
【流動資産】	20,950,660	【流動負債】	9,784,497
現金・預金	11,429,095	買掛金	1,337,799
未収入金	7,346,650	未払金	7,486,314
立替金	540,503	預り金	360,384
前払費用	210,000	前受金	600,000
仮払金	1,424,412	負債の部合計	9,784,497
【固定資産】	791,856	正味財産の部	
【有形固定資産】	491,856	前期繰越正味財産	16,520,225
工具器具備品	178,791	当期正味財産増加額	△ 4,562,206
一括償却資産	313,065	正味財産合計	11,958,019
【投資等】	300,000		
敷金	300,000		
資産の部合計	21,742,516	負債・正味財産合計	21,742,516

(単位:円)

本来事業会計収支計算書

2001年4月1日～2002年 3月31日

経常収支の部		
【経常収入の部】		
会費収入	24,510,500	
助成金収入	3,800,000	
寄付金収入	7,536,000	
その他収入	5,254,558	
受取利息	1,416	
経常収入合計		41,102,474
【経常支出の部】		
【管理費】		
理事報酬	2,888,400	
給料手当	17,479,500	
雑給	4,654,540	
法定福利費	2,172,624	
福利厚生費	69,825	
外注費	798,000	
荷造運賃発送費	22,599	
広告宣伝費	1,765,302	
交際費	869,677	
会議費	479,101	
旅費交通費	2,776,554	
通信費	1,185,849	
消耗品費	757,320	
事務用品費	584,553	
水道光熱費	134,398	
新聞図書費	226,281	
諸会費	53,500	
支払手数料	108,664	
保険料	40,570	
支払報酬	24,000	
賃借料	4,010,423	
租税公課	5,282	
研修費	473,565	
印刷費	352,428	
講師料	1,162,430	
奨学金	1,560,000	
事業費	507,731	
減価償却費	363,064	
雑費	138,500	
管理費合計		45,664,680
経常支出合計		45,664,680
経常収支差額		△ 4,562,206
当期収支差額		△ 4,562,206
前期繰越収支差額		7,283,103
次期繰越収支差額		2,720,897

収益事業 会計貸借対照表

2001年4月1日～2002年 3月31日

資産の部		負債の部	
【流動資産】	832,100	【流動負債】	1,060,182
未収入金	832,100	預り金	9,000
		仮受金	1,051,182
		負債の部合計	1,060,182
【固定資産】	220,290	【正味財産の部】	
【有形固定資産】	220,290	前期繰越正味財産	619,280
工具器具備品	220,290	当期正味財産減少額	△ 627,072
		正味財産合計	△ 7,792
資産の部合計	1,052,390	負債・正味財産の部合計	1,052,390

収益事業 会計収支計算書

2001年4月1日～2002年 3月31日

経常支出の部		
【経常収入の部】		
その他収入	12,222,173	
経常収入合計合計		12,222,173
【経常支出の部】		
【管理費】		
役員報酬	591,600	
給料手当	5,270,500	
雑給	1,996,000	
法定福利費	432,823	
広告宣伝費	39,563	
交際費	93,307	
旅費交通費	1,439,954	
通信費	669,122	
消耗品費	745	
事務用品費	104,295	
水道光熱費	134,398	
支払手数料	8,077	
支払報酬	535,500	
賃借料	1,116,451	
リース料	17,010	
租税公課	324,900	
講師料	75,000	
管理費合計		12,849,245
経常支出合計		12,849,245
経常収支差額		△ 627,072
当期収支差額		△ 627,072
前期繰越収支差額		619,280
次期繰越収支差額		△ 7,792

Organization



ETIC.（エティック）は、次世代を担う若者への機会提供を通して、Entrepreneurial Leader（起業家型リーダー）の輩出と、社会にイノベーションを生み出すことを目指すNPOです。

私たちは敢えてNPO法人（特定非営利活動法人）というニュートラルなスタンスで事業を行っています。社会を挙げて変革が求められる時代において、小さな力で大きな価値を動かすイノベーターとしてのNPOの可能性に挑戦したいと考えるからです。

ミッション Our Mission

起業家精神とイノベーションの溢れる社会創り

ビジョン Our Vision

1. 次世代を担う若者を、起業家型リーダーとして社会に輩出する
2. 若者とともに、社会にイノベーションを創出していく
3. 地域や高等教育機関と連携し、新たな人材輩出の仕組みを構築する

主な活動 Our Activity

- 1.アントレプレナー・インターンシップ事業**
ベンチャー企業・NPO・大手企業新規事業部での実践型インターンシップ
- 2.シードステージ・インキュベーション事業**
20代を中心とした若手起業家のシードステージ（創業準備期）を社会を巻き込み支援するインキュベーションプログラム
- 3.人材育成プログラム構築支援事業**
地域社会や高等教育機関と連携し、新たな人材輩出の仕組みを構築する
- 4.コミュニティ事業**
起業家精神溢れるカルチャーを育てるコミュニティの形成

